

2025年度 町田市立大蔵小学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和8年3月31日

学校教育目標 「仲よく 助け合う子ども」「よく考え 工夫する子」「体をきたえ やりぬく子」		学校経営の重点 児童のよりよい学びを支えるために「授業力向上」「授業改革」を軸に学校経営を行う 授業で勝負するために学び続け、高めあえる教員集団を目指し、そのための環境整備をすすめる									
○目指す学校像………楽しく学び、自己肯定感を高めることのできる学校 「褒めて・認めて伸ばす」「チーム大蔵で子供を育てる」		重点目標の成果と課題 ○より良い授業を提供するためにテーマ別の自主研修『タチバナ』(週1回)と授業力向上を目指した実践共有『ふらっとイン』(随時)を掛け合わせた研究を推進し、授業改革の日常化を図った。 ○大蔵小学校の研究・研修スタイルに興味を示す他校、他地区の教員と一緒に学びあうことができた。今後は学校運営協議会の委員にも授業実践や校内研修の様子を定期的に公開していきたい。 △学習内容に応じてデジタルとアナログを使い分けていることが保護者に十分に理解してもらえていなかった。ICT活用の意義やねらいを保護者に説明し、授業での活用場面を積極的に公開していきたい。									
○目指す児童・生徒像…明るい子 粘り強い子 思いやりのある子											
○目指す教師像………明るく前向きな教師 学び続ける教師 違いを尊重できる教師											

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的な方策	取組指標	平均	評価	成果指標	〇% 評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価	
社会に開かれた教育課程の実現 目標: 学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	目標: 学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	地域の環境、資源、人材等を活用し、地域とともに教育活動を推進する。	学校運営協議会と連携して、目標や課題を共有し、教育の質の向上を図る。	4 必要情報の90%以上を周知・意見交換 3 必要情報の80%以上を周知・意見交換 2 必要情報の70%以上を周知・意見交換 1 必要情報の70%未満を周知・意見交換	4	A	A 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」②「地域との一体化」肯定の評価 55%未満	94	A	地域連携・外部活用 成果指標は69%で評価はBです。目標の70%以上にわざわざ届かなかったものの、地域学校協働活動などは概ね実施されています。	地域連携・外部活用 成果指標が70%(評価B)であったことから、今後は年間計画に基づいた活動の実施率をさらに高める必要があります。学校運営協議会(ミニユーティ・スケル)との目標共有をより深め、外部講師やボランティアの活用を日常化されることが求められます。	A 「常時学校公開」と地域・保護者に呼び掛けていることや、学校をオープンにしてることが安心につながっている。今後はさらにボランティア・コーディネーターとの連携を強め、児童や教員の要望に応じた活動を実施してほしい。	A
			VCと連携し、外部講師やボランティアを積極的に活用し、地域学校協働活動の充実を図る。	4 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の90%以上を実施 3 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の80%以上を実施 2 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の70%以上を実施 1 年間指導計画に設定した地域学校協働活動の実施が70%未満	3	B	A 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」①「地域連携教育活動」肯定の評価 55%未満	70	B	情報発信(HP・学校だより)、成果指標は94%と非常に高く、評価はAです。定期的な情報発信が保護者や地域から高く評価されています。	情報の「双方向性」の検討 情報発信(評価A・94%)と公開(評価A・86%)は非常に高い水準にあります。今後は単なる発信に留まらず、周知・意見交換の質をさらに高め、保護者や地域からのフィードバックを教育活動へより反映させる仕組みづくりが鍵となります。		
			ホームページや学校だよりを充実させ、学校の様子を定期的に情報発信していく。	4 月15回以上の更新 3 月10回以上の更新 2 月5回以上の更新 1 月5回以下の更新	4	A	A 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」③「情報発信」肯定の評価 55%未満	94	A	教育活動の公開: 成果指標は86%で評価はAです。日々の授業や行事の公開が積極的に行われたことが伺えます。	情報の「双方向性」の検討 情報発信(評価A・94%)と公開(評価A・86%)は非常に高い水準にあります。今後は単なる発信に留まらず、周知・意見交換の質をさらに高め、保護者や地域からのフィードバックを教育活動へより反映させる仕組みづくりが鍵となります。		
			日々の教育活動や行事等を積極的に公開していく。	4 90%以上のクラスで意識して公開に努めた 3 80%以上のクラスで意識して公開に努めた 2 70%以上のクラスで意識して公開に努めた 1 公開に努めたクラスが70%未満だった。	3	B	A 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ア」④「教育活動公開」肯定の評価 55%未満	86	A	日々の教育活動や行事等を積極的に公開していく。	情報の「双方向性」の検討 情報発信(評価A・94%)と公開(評価A・86%)は非常に高い水準にあります。今後は単なる発信に留まらず、周知・意見交換の質をさらに高め、保護者や地域からのフィードバックを教育活動へより反映させる仕組みづくりが鍵となります。		
			校内研修とOJTを一体化させるため、全教員が年間3回以上の授業公開を行い、授業力向上の取組を日常化させる。	4 全学級が計画的に取り組んだ。 3 90%以上の学級で計画的に取り組んだ。 2 80%以上の学級で計画的に取り組んだ。 1 計画的に取り組んだ学級が80%未満。	4	A	A 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」①「基礎基本習得」肯定の評価 55%未満	92	A	基礎・基本の習得: 成果指標は92%で評価はAです。基礎的な知識・技能の定着に高い成果が出ています。	ICT活用の個別最適化	B 大蔵小学校の教員の向上心はOJTを通じて高まっている。教員同士が学びあう様子も多く見られ、校内研修を積極的に取り入れ、相互に学び続ける力を育てる指導の工夫が必要です。	B
			問題解決的な学びを通して、主体的に学び自分の考えを多様な方法で表現させる。	4 全ての教育活動において意識して取組んだ 3 90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2 80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1 80%未満の教育活動で意識して取組んだ	2.5	C	A 全職員の達成度評価「肯定」の評価 80%以上 B 全職員の達成度評価「肯定」の評価 70%以上 C 全職員の達成度評価「肯定」の評価 55%以上 D 全職員の達成度評価「肯定」の評価 55%未満	75	B	教員の授業公開・向上心: 成果指標は75%で評価はBです。全教員による年3回以上の授業公開などで、組織的な授業改善が進んでいます。	教員の授業公開・向上心: 成果指標は75%で評価はBです。全教員による年3回以上の授業公開などで、組織的な授業改善が進んでいます。		
			デジタルとアナログの特性を生かした学習形態の工夫を行い、主体的に学び続ける子供を育てる。	4 全ての教育活動において意識して取組んだ 3 90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2 80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1 80%未満の教育活動で意識して取組んだ	2.5	C	A 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」②③④「学びに向かう姿勢」肯定の評価 55%未満	62	C	「対話的な学び」の質の向上 授業改善の評価が75%(評価B)である現状を踏まえ、教員の相互参観やOJTをさらに活性化させる必要がある。特に、自分の考えを多様な方法で表現せしむる問題解決的な学びの場面を全学級でより計画的に取り入れることが課題です。	「対話的な学び」の質の向上 授業改善の評価が75%(評価B)である現状を踏まえ、教員の相互参観やOJTをさらに活性化させる必要がある。特に、自分の考えを多様な方法で表現せしむる問題解決的な学びの場面を全学級でより計画的に取り入れることが課題です。		
			クロームの効果的な活用を推進し、めあてに応じてICTを活用できる力を育てる。	4 全ての教育活動において意識して取組んだ 3 90%以上の教育活動で意識して取組んだ 2 80%以上の教育活動で意識して取組んだ 1 80%未満の教育活動で意識して取組んだ	2.5	C	A 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「イ」⑤「ICT活用」肯定の評価 55%未満	69	C	「対話的な学び」の質の向上 授業改善の評価が75%(評価B)である現状を踏まえ、教員の相互参観やOJTをさらに活性化させる必要がある。特に、自分の考えを多様な方法で表現せしむる問題解決的な学びの場面を全学級でより計画的に取り入れることが課題です。	「対話的な学び」の質の向上 授業改善の評価が75%(評価B)である現状を踏まえ、教員の相互参観やOJTをさらに活性化させる必要がある。特に、自分の考えを多様な方法で表現せしむる問題解決的な学びの場面を全学級でより計画的に取り入れることが課題です。		
			いじめの未然防止、早期発見に取り組むとともに、不登校(傾向)児童への寄り添った対応を行う。	4 いじめ防止の指導を月1回以上実施 3 いじめ防止の指導を学期に2回以上実施 2 いじめ防止の指導を学期に1回以上実施 1 いじめ防止の指導を年に2回以上実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」①「いじめ防止の取組」肯定の評価 55%未満	66	C	いじめ防止の取組: 成果指標は66%で評価はBです。未然防止や早期発見の指導は継続されていますが、肯定的な評価としては「」の範囲にとどまっています。	いじめ防止教育の早期・継続的実施	A 各学年の特別活動の取組を通じて、自分の居場所を見つけられた児童や相手を思いやれる児童が増えたと感じる。	A
			道徳の授業や学級活動を中心として、安心して自分の考えを言える学級づくりを行う。	4 すべての教育活動を通して指導実施 3 90%以上の教育活動を通して指導実施 2 80%以上の教育活動を通して指導実施 1 80%未満の教育活動を通して指導実施	3	B	A 学校評価アンケート「心」の教育肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「心」の教育肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「心」の教育肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「心」の教育肯定の評価 55%未満	79	B	規範意識(スタンダード徹底): 成果指標は87%で評価はAです。「大蔵小スタンダード」に基づいた統一指導が効果を上げています。	規範意識(スタンダード徹底): 成果指標は87%で評価はAです。「大蔵小スタンダード」に基づいた統一指導が効果を上げています。		
			「大蔵小スタンダード」(人の決まりを大切に)に従って、統一した指導の下で、規範意識の徹底を図る。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」②③「規範意識」肯定の評価 55%未満	87	A	規範意識(スタンダード徹底): 成果指標は87%で評価はAです。「大蔵小スタンダード」に基づいた統一指導が効果を上げています。	規範意識(スタンダード徹底): 成果指標は87%で評価はAです。「大蔵小スタンダード」に基づいた統一指導が効果を上げています。		
			自らすすんで挨拶をする子の育成を図るため、教員からすすんで挨拶をする。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」③「挨拶」肯定の評価 55%未満	84	A	挨拶の励行: 成果指標は84%で評価はAです。教員からの挨拶を含め、良好な習慣が定着しています。	挨拶の励行: 成果指標は84%で評価はAです。教員からの挨拶を含め、良好な習慣が定着しています。		
			一人一人の規範意識を高める。	4 90%以上の指導場面で実施 3 80%以上の指導場面で実施 2 70%以上の指導場面で実施 1 70%未満の指導場面で実施	4	A	A 学校評価アンケート「ウ」④「規範意識」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「ウ」④「規範意識」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「ウ」④「規範意識」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アンケート「ウ」④「規範意識」肯定の評価 55%未満	80	A	規範意識(スタンダード徹底): 成果指標は80%で評価はAです。規範意識(スタンダード徹底): 成果指標は80%で評価はAです。	規範意識(スタンダード徹底): 成果指標は80%で評価はAです。規範意識(スタンダード徹底): 成果指標は80%で評価はAです。		
豊かな心の涵養 目標: 多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	目標: 多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	相手を思いやる心を育てる。	体育の授業改善を図るとともに、一校一取組を充実させ、体力向上を図る。	3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3	B	A 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定の評価 80%以上 B 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定の評価 70%以上 C 学校評価アンケート「エ」①「運動やスポーツ」肯定の評価 55%以上 D 学校評価アン						